

## 市 政 報 告

最近の市政について報告いたします。

### ○ 令和7年度の予算編成方針について

我が国の経済は、雇用や所得環境の改善が進む中、緩やかな回復が続いております。高い金利水準の影響等による物価上昇や、金融資本市場の変動等の影響が大きいとされる一方で、高水準の賃上げが実現しており、日本経済を成長型の新たなステージに移行させていくことが最重要であるとしております。

地方財政については、DX・GXの推進、人への投資、能登半島地震の教訓を踏まえた防災・減災の取組みの強化などのために、一般財源の総額は前年度と同水準が確保される見込みではありますが、歳出全般にわたり、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底して排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化するとしており、国の動向に注視していく必要があります。

本市の財政状況は、一般会計の令和5年度決算は、実質収支は約6億4,331万円の黒字となりましたが、高機能消防指令センター改修事業など大型事業の進捗や、人件費の増加などにより、実質単年度収支は約9,397万円の赤字となりました。

歳入の一般財源は、個人所得の増加や企業業績による法人税収入に回復が見られたことにより、市税が、前年度比で2.15%、6,130万円の増加となりましたが、地方交付税については、交付税算定内容の変更などにより2.26%減少し、また「ふるさと納税」の寄付額は、21.42%減少しております。

歳出は、任意繰上償還したことにより、公債費が17.45%増加したほか、人件費は増加しておりますが、新型コロナウイルス感染症対策事業等の終了により、補助費等が14.3%減少しております。なお、財政の健全性を示す各指標はいずれも早期健全化判断基準を下回っており、また、市債残高も徐々に減少し

ていることから、市の財政の健全性は保たれております。

今後の財政見通しは、歳入では、市税等において人口減少による影響は避けられず、また臨時財政対策債を含めた実質的な地方交付税は減少が見込まれており、一般財源総額の増額を見込むことは厳しい状況にあります。

一方で、歳出は、高齢化により増加する扶助費や社会保障費への対応、脱炭素化等の取組み、そして公共施設等の老朽化対策や、近年、激甚化、頻発化する自然災害への対応や備えなど、多様化、複雑化する課題への対応が求められております。

これらを踏まえ、令和7年度の市の予算編成は、令和6年7月の豪雨災害の復興事業を優先しながら、「第2次にかほ市総合発展計画（後期基本計画）」に掲げるまちづくりの基本方針に基づく諸施策や、「にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の主要施策、そして市長公約の7分野25項目の事業に取り組むために、より効果的に財源、人材、時間を配分し、将来を担う子どもたちにバトンを繋いでいけるよう、事業の新陳代謝に繋がる予算を編成いたします。

## ○ 組織の再編について

令和7年度の本市の行政組織については、施策の推進に、より適した組織に再編するため、「企画調整部」を「企画振興部」に改め、また、景観保全型ほ場整備事業が順調に進捗していることもあり、令和3年度に分離した「農林水産部」と「建設部」を改めて「農林水産建設部」に再編し、組織の効率化と合理化を進めて参ります。

事務分掌は、財政や財産管理等を総務部に、広報や移住・定住関係を企画振興部に、それぞれ移管いたします。

これらの事務分掌の変更を行うため、関連する条例改正案を今定例会に提出しております。

## ○ にかほ市物産展の開催について

11月2日に、姉妹地である台東区浅草馬道地区の浅草神社境内地において「にかほ市物産展」を開催しました。

あいにくの雨の中での開催となりましたが、今年も市内4事業者が市の特産品などを販売し、多くの来場者がそれらを手に取り楽しむ様子がみられました。

外国人観光客や七五三の参拝で訪れた家族連れなど多く方で大変賑わい、地元住民からは開催を喜ぶ多くの声をいただいております。

### ○ にかほ市ふるさと会の開催について

11月3日に、「第14回にかほ市ふるさと会」が、東京都台東区の総合宴会場オーラムで開催されました。会員や当市からの参加者を含めた180人が集い、紹介ビデオ「にかほ この1年」の上映や、ふるさとの特産品の抽選会などで賑わいました。

懇親会では、同窓生や同郷の方々との再会に、近況の報告やふるさとに対する熱い思いを語り合い、親交を深め、盛会裡に終了しました。

### ○ 国際交流事業について

姉妹都市・米国ショウニー市へ10月23日から29日の日程で、中学生10人、引率3人の計13人を派遣し、大変心温まる歓迎を受けております。

コロナ禍を経て5年ぶりの再開となった第31回目の訪問団は、仁賀保・象潟の2中学校と秋田南高等学校中等部の生徒で構成され、学校訪問での交流や市内施設見学でショウニーの歴史を学ぶなど積極的な交流を行い、5泊のホームステイでは異国の文化や生活習慣を体験し友情の輪を広げ、全員元気に帰国しました。

12月4日に、団員一人ひとりから、滞在中の出来事や交流と体験で得たこと、今後の生活での活かし方などを発表する報告会が予定されており、一回り大きく成長した姿が見られることを楽しみにしております。

### ○ 敬老式と金婚式について

9月末から10月上旬の5日間にわたり開催した敬老式及び金婚式には、合わせて669名が参加し、参加率は12.5%と昨年度と比較し若干多くなっています。

初めての参加者も多数おり、園児たちのダンスや婦人会等の余興を楽しみ、久しぶりの交流で大変賑わいました。

また金婚式では、申し込まれた7組のご夫婦に、金婚祝状を贈呈しています。

## ○ 農産物の状況について

今年の稲作の状況は、田植え後の低温により例年に比べ遅れ気味に推移していましたが、6月に入り莖数ともに例年並みまで回復し、出穂時期は平年並みとなりました。夏の高温で登熟が早まり、7月の曇天により草丈の高い状態から、一部のほ場では倒伏がみられましたが、例年どおりの稲刈りを迎えております。

秋田県中央の作況指数は100の「平年並み」となっておりますが、にかほ市管内の状況は、ほ場間でバラつきもあり、昨年より減収となっている地域も見受けられます。

一方、10月末現在、にかほ市管内のJA集出荷数量は、昨年同期比で約500トン多い約5,000トンとなっており、局地的にカメムシの影響により等級格下げもありましたが、一等米比率は、95.2%となっております。

今年の新米の概算金は各地で大幅な値上げとなり、JA秋田しんせいの概算金は、主力のひとめぼれで昨年より4,790円高い、一等米60kg当たり15,370円となり、さらに、追加払いが発表されています。

また、今年7月の大雨により被災したJA秋田しんせい野菜種苗供給センターの復旧や農家の事業継続への支援策として、薬剤などの生産に係る費用の一部を助成するための補正予算案を今定例会に提出しております。

## ○ ツキノワグマの状況について

今年の4月に発令した「ツキノワグマ出没警報」は10月31日に解除され、現在、11月30日までの期間で「注意報」に切り替わり発令されております。

本市における目撃件数は、11月15日現在で20件となっており、対前年度比で半分以下となっております。近年は住宅地付近での目撃が増えていることから、目撃情報があった場合には、防災行政無線と防災あんしんメール等による注意喚起を継続するとともに、野生動物を人の生活圏に出没させない環境整備に努めて参ります。

## ○ 大雨災害復旧工事について

7月の豪雨により被災した農地の大規模災害復旧工事については、11月12日から15日の日程で国の災害査定が行われ、査定件数11件、対象農地26箇所

(3.16ヘクタール)、査定額5,069万6千円となりました。

これらの災害復旧に係る補正予算案を今定例会に追加で提出する予定であります。

また、公共土木施設については、道路、河川及び水道施設のうち12箇所について、国の災害査定が11月14日で終了しています。今後は、適時に予算を計上し、県からの着工承認後に、工事を発注して参ります。

引き続き、被災した農地の営農再開及び道路や河川などの早期復旧に全力で努めて参ります。

### ○ 冬季の道路除雪について

12月1日からの冬期間の道路除雪体制について、11月21日に委託業者等との除雪会議を開催し、安全かつ効率的な除雪作業の実施に向けた打合せを行っております。

市の直営作業班をはじめ、市内業者12社を含む個人・団体への委託体制により、降雪時の円滑な歩行と安全な車両通行の確保に努めて参ります。

### ○ 市内の経済状況について

7月から9月の景況調査では、依頼した70社のうち64%にあたる45社から回答がありました。全体としては前年同期と比較して「好転」が11社、「横ばい」が20社、「悪化」が14社となっております。

製造業においては、前年同期より「好転」が7社、「横ばい」が6社、「悪化」が6社となっております。また、前回調査との比較では、「横ばい」が10社、「悪化」が6社となっており、「好転」と回答した事業者はおりませんでした。

今後の見通しについても、大手企業からの受注低迷や物価高騰により、景況持ち直しの動きが弱いため、今後も市内経済の動向を注視して参ります。

### ○ にかほ市外国人技能実習生交流事業について

市内の製造業で就労する外国人技能実習生の交流事業として、9月22日に、大森山動物園や輸入食品を多く取り扱う小売店などを巡るバスツアーを行いました。

ツアーには4事業所から26人が参加し、就労先や出身国が異なる実習生同士が園内を巡りながら記念撮影や日本語で会話をするなど、交流を深めました。

2月にはフットサル交流大会を予定しており、今後も、実習生が充実した生活を送れるよう側面からサポートして参ります。

## ○ 移住・定住の促進について

9月21日と22日に、東京国際フォーラムで「ふるさと回帰フェア」が開催され、本市のブースでは計25組から相談を受けました。

また、10月5日には、県主催のイベント「あきた移住・交流フェア」が品川で開催され、6組から相談を受けております。イベント後には、相談者と電話やメール、ZOOMで連絡を取り合い、移住体験ツアーやお試し体験住宅を紹介し、本市に一度来ていただけるように努めております。

今年度は、これまで移住体験ツアーに7組10名が参加したほか、お試し体験住宅を10組15名が利用されるなど、本市への移住に関心が高まっております。

今後も首都圏で開かれるイベントには、積極的に相談ブースを出展し、移住支援制度や子育て支援策をPRしながら移住促進に繋げて参ります。

## ○ 若者の地元定着の促進について

由利地域振興局との共催により、市内の中学2年生を対象に「中学生と管内企業のふれあいPR事業」を10月17日に仁賀保中学校、10月31日に象潟中学校を会場に開催しました。

製造業や建設業、林業などのほか、秋田県立大学や看護学校など様々な業種の18事業者がブースを設け、自社製品やサービスを紹介し、業種や企業の魅力などをPRしました。

義務教育の段階で生徒と企業が直接触れ合うことにより、生徒へのキャリア教育の一環として、地元企業への理解を深めてもらう貴重な機会となっております。

今後も、地元就職が選択肢となるよう意識醸成を図るとともに、若年就業者の職場定着や若者の地元定住を促進して参ります。

### ○ 鳥海山・飛島ジオパークの再認定審査について

4年に一度の日本ジオパーク再認定審査が、10月30日から11月1日までの3日間にわたり行われました。平成28年9月に認定された「鳥海山・飛島ジオパーク」にとっては2回目の現地調査になります。

本市では、2人の現地調査員が九十九島や冬師湿原などの地形地質サイトを巡り、成り立ちや保全の現状、活用について確認したほか、4年間の活動報告や意見交換を通じて、ジオパークが持つ魅力を再確認する機会になりました。

来年1月には審査結果が通知される予定ですので、吉報を待ちながら、ジオパークを核とした各種活動を推進して参ります。

### ○ にかほ市スポレク祭について

10月14日のスポーツの日に、「にかほ市スポレク祭」を開催し、各団体や民間事業者の協力を得ながら、様々なスポーツ体験会を行いました。

新たに、スケートボード、サウンドテーブルテニス、市内フィットネスジムによるトレーニング、カヌーの陸上トレーニングなどの多彩なメニューを加え、総勢835人が爽やかな汗を流しました。

今後も各団体と連携し、多様なスポーツを体験できる場を提供して参ります。

### ○ リベリア共和国とのスポーツ・文化交流について

10月31日から11月3日の日程で、東京2020大会ホストタウン相手国であったリベリア共和国の駐日大使館関係者と陸上競技のオリンピックが本市を訪れました。

国では、来年の2025日本国際博覧会、いわゆる大阪・関西万博を契機に、アフリカ地域や中南米地域など、自治体との交流実績が少ない地域と交流を促進する万博国際交流プログラムを進めており、本市も交流事業を実施することとなったものです。

市民とのスポーツ交流、駐日大使の講演、市民文化祭の見学等を通じて異文化に触れ、お互いの魅力を認め合い、交流を深める貴重な機会となりました。